

# 自閉症のある子どもの自立活動と 各教科等の関連を図った指導を考えよう！

下の STORY は、自閉症・情緒障害特別支援学級に在籍する小4のはるとさんの特別支援学級での自立活動の学習と交流学級での図工の学習の様子です。



## STORY 1

自立活動の学習で、集中して話を聞く方法を考えたはるとさん



## STORY 2

図工の学習 (交流学級) で、「スイッチ」を使えなかったはるとさん



はるとさんは、自立活動で学んでいることを生かして、特別支援学級の国語では集中することができたようですが、交流学級の図工ではうまくいきませんでした。交流学級のきみ子先生も悩んでいるようです。



ナイセイ博士

はるとさんが自立活動で学んでいることを交流学級の各教科等の学習でも生かせるようにするにはどうしたらいいか、2人の先生と一緒に考えてみましょう。



# 子どもの姿から解決策を 考えてみましょう！

STORY3は、2人の先生が改めて必要な情報を共有している様子です。  
STORY4では、つむぎ先生が、自立活動で学んでいることを生かせる環境を考えています。



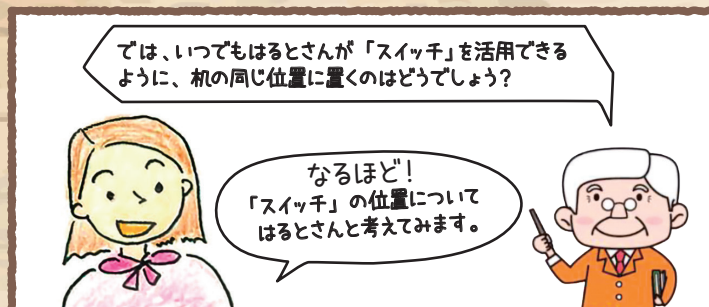
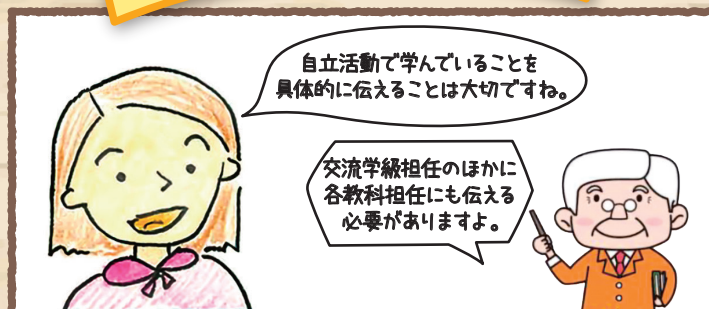
## STORY 3

教員間で、どんな情報を共有しておけばよかったのでしょうか？



## STORY 4

はるとさんが自立活動で学んでいることを生かせるようにするには？



日頃から関係する先生方で、子どもが自立活動で学んでいる内容や必要な支援などの具体的な情報を共有し、それぞれの学習場面で子ども自身が学んでいることを生かせるように環境を調整することが大切です。



自立活動の教育課程上の位置付けを確認し、自立活動と各教科等の関連を図った指導について具体的な取組を見てみましょう。



# 自立活動の教育課程上の位置付けとは？

「特別支援学校学習指導要領解説自立活動編」ではこう書かれています。

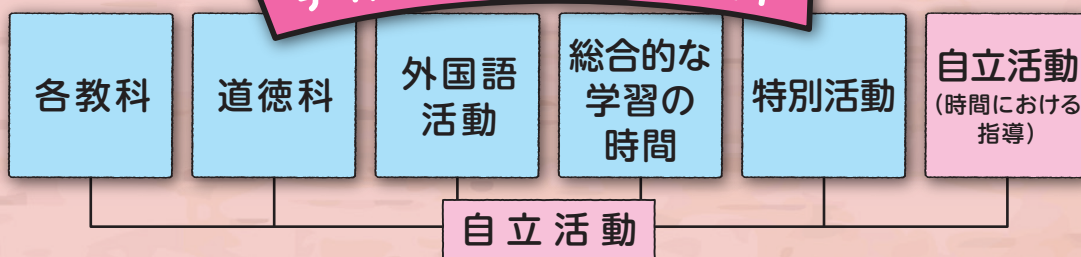


自立活動では、個々の児童又は生徒が自立を目指し、障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識・技能・態度及び習慣を養い、もって心身の調和的発達を基盤を培います。

個々の実態把握によって導かれる心身の調和的な発達の基盤に着目して指導するものが自立活動であり、自立活動の指導が各教科等において育まれる資質・能力を支える役割を担っています。

自立活動は、授業時間の特設して行う自立活動の時間における指導を中心とし、各教科等の指導においても、自立活動の指導と密接な関連を図って行う必要があります。

## 学校の教育活動全体



詳しくは、「特別支援学校学習指導要領解説自立活動編」を！



## はるとさんの事例から、自立活動と各教科等との関連を考えてみましょう

### はるとさんの実態



- ・小学校4年生
- ・話を集中して最後まで聞くことが苦手。
- ・工作が得意。

子どもが自立活動で学んでいることを生かして各教科等の学習に取り組むことができるように、教員は各教科等の指導で自立活動の指導を参考にして必要な配慮や手立てを行う。

各教科等

密接な関連

自立活動 (時間における指導)

子どもが各教科等における学習上または生活上の困難を改善・克服できるよう、教員は自立活動の指導を行う。その際、各教科等の学習内容や教材を自立活動の指導に活用することが考えられる。

### きみ子先生の各教科等の指導

#### つむぎ先生との具体的な情報共有

- ・特別支援学級でも交流学級でも、はるとさんが教員の話を中心して最後まで聞くことが難しいことを共有する。
- ・自立活動で「スイッチ」を使った集中を持続する学習をしていることを共有する。

#### 教科指導上の配慮や手立て

- ・はるとさんの集中が切れそうなときに自分で「スイッチ」を使って集中を戻すよう声を掛ける。

困難さに対する学習内容の設定については、各種リーフレットをご活用ください

- ・「自閉症のある子どもの自立活動の授業を組み立てる上での要点」
- ・「自閉症のある子どもの指導目標の設定・見直しにおけるポイント」



### つむぎ先生の自立活動の指導

#### はるとさんの困難さ

- ・興味があることに注意がそれがちで、教員の話を中心して最後まで聞くことができない。

#### 指導内容

- (特別支援学級全体)
- ・教員の話聞く場面の振り返りを行い、自己の困難さに気付けるようにするなど、自己理解を促す。
- ・集中して話を聞く方法を特別支援学級全体で考える。
- (個人)
- ・自分に合った集中の持続の仕方について考える。
- ・「スイッチ」を使った集中の持続の仕方を試してみる。

# 自立活動と各教科等の関連を図るための具体的な取組の紹介

かおりさんの場合

しょうた先生は、特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編に示された流れ図を活用し、自立活動と各教科等の関連を整理しました。その実践について紹介します。



## 1 実態把握シートを使って各教科等でのよさや課題を洗い出しましょう

### 実態把握

障害の状態、発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所やよさ、課題等



かおりさん  
(小2)

- ・体育では、「やりたくない」と言って苦手な活動に参加しない。  
特に、初めての活動に対する抵抗感が強い。  
自分なりにルールが分かるとその部分だけ、参加することがあった。
- ・国語や算数、生活では、集中していない時があり、指示や説明を聞き漏らすことが多い。
- ・友達と積極的に関わろうとするが、自分の思いを一方的に伝えることがある。

かおりさんと関わりのある先生が把握している情報をお互いに交換しましょう。

自立活動の指導目標、指導内容の考え方については、QRコードからリーフレットへ!!



## 2 困難さの背景に基づき、中心的な課題を明確化しましょう

### 中心的な課題の整理

健康の保持	心理的な安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
	学習で集中を持続することが難しい(1)。初めての活動への参加に抵抗を示すことがある(2)。	やりたくない活動があると、席を離れたたり、廊下に出たりする(4)。	複雑なルールのある活動に対して、苦手さがある(5)。	はさみやカッターを使った活動に対する苦手さがある(3)。	話し手に注意を向け続けることが難しく、指示を聞き漏らすことがある(2)。言葉で説明することに苦手さがある(2)。

中心的な課題

活動への見通しがもてない状況になると、参加の意欲が低下する。

自立活動の指導目標

活動内容やルールを理解して見通しをもち、苦手な授業に参加する。

中心的な課題を導き出すために、複数の先生で情報を共有しましょう。中学校では、各教科担任の先生から多くの情報が集まりますね!

## 3 自立活動の指導内容と各教科等の指導の関連を整理しましょう

### 自立活動と各教科等の指導の関連整理

自立活動の指導と関連を図る各教科等		
各教科等(指導の場)	各教科等での配慮や手立て	自立活動の指導内容(①、②)
体育 (交流学級)	<ul style="list-style-type: none"><li>・新しい活動の時は、見通しがもてるように内容やルールを視覚化して伝える。</li><li>・声をかけながら、質問を引き出していく。</li></ul>	[指導内容①] 活動前に内容やルールを確認したり、視覚化したりする。
国語・算数 (特別支援学級) 生活 (交流学級)	<ul style="list-style-type: none"><li>・授業に参加しているときの気持ちを共有する。</li><li>・がんばりたいことに対して、活動後すぐにフィードバックを行い、集中や意欲が続くようにする。</li></ul>	[指導内容②] 約束やがんばりたいことを決め、感情を視覚化したカードを使って不安を共有し、気持ちの安定を図る。

自立活動と各教科等の指導の関連を図るときには、特別支援学級の先生と交流学級の先生が自立活動の指導目標や指導内容を共有することが大切ですね!



# 指導の関連の様子を具体的に見てみましょう！

## 指導の記録

### 各教科等の指導の様子

- ・ 体育の授業中、理由を言わず、「やりたくない」と交流学級の先生に伝えて、途中から参加しなくなった。
- ・ これを機に体育の授業は、「出ない」と言うようになった。

- ・ 体育の授業の活動内容やルールが分かって、活動に対して見通しがもてるようになった。少しずつ、自分から初めての活動に挑戦する姿が見られた。
- ・ どうしていいかわからない状況で自分から先生に質問することがあった。

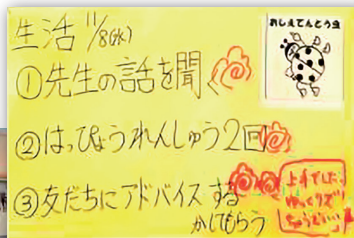
- ・ 他の教科でも45分間の授業に参加できるようにするために話し合った。初めての授業や活動の時は、不安な気持ちが強くなることを話してくれた。

- ・ 「気持ちカード」と自分の気持ちを重ねて表出できたことで、不安な気持ちが軽減され、前向きな発言が多くなった。

- ・ 授業前に特別支援学級の先生に今日の授業の活動内容を伝え、がんばるポイントを確認した。

- ・ 付箋に「3つのがんばること」を書いた「役立ちカード」を持って授業に参加した。
- ・ 「3つのがんばること」に対して、活動後に花丸やコメントをもらおうと嬉しそうな表情をしていた。

がんばったね！  
花まる！



### 自立活動の指導の様子

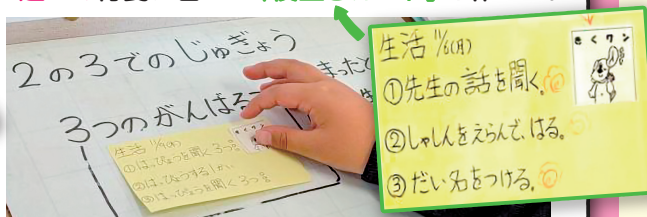
- ・ 体育の授業について、振り返りを行った。
- ・ 学習活動や学習内容を視覚化した。
- ・ 「分からない時は質問する」ことを指導して、実際の場面を想定して練習した。



- ・ オリジナルキャラクター入りの「気持ちカード」作りを行った。自分の気持ちやがんばりたいことをみんなと共有し、カードを使って伝え合うことで、がんばる体験を重ねた。



- ・ 交流学級の先生から聞いた活動内容を伝え、その中から自分でがんばりたいことを3つ選んで付箋に書いた「役立ちカード」を作った。



- ・ 前向きな気持ちで取り組めるように、自分の感情を表す「気持ちカード」も一緒に貼った。

- ・ 次の授業に向けて、自分から「3つのがんばること」を決めて、「気持ちカード」を貼り、「役立ちカード」を完成させることができた。

- ・ 「気持ちカード」を選ぶことで、自分の感情面の課題を受け止めながら、活動に参加することができるようになった。

### 必要な配慮や手立て

- ・ 見通しがもてるように内容やルールを視覚化して伝える。
- ・ 活動後、すぐにフィードバックを行い、集中や意欲が続くようにする。



# 自立活動と各教科等の関連を 図るための役割分担と連携

教員間における役割を整理しましょう。

## 連携



### 交流学級の 先生の役割

自立活動で行っている学習を把握し、それを参考にして各教科等の指導で配慮をしていく。

校内支援会議やケース会議などで情報共有をしたり、教員間でメモのやり取りをしたりなど、連携には様々な方法が考えられます。

### 特別支援学級の 先生の役割

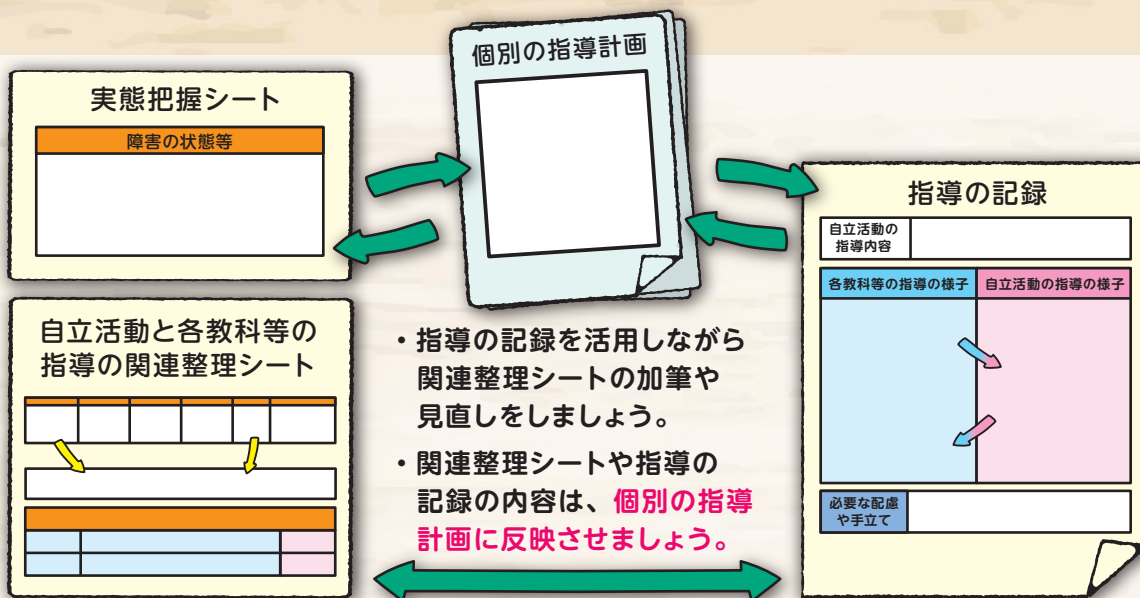


各教科等での学習上または生活上の困難さを把握し、それらを改善・克服するために自立活動の指導を行う。またその自立活動の指導が、各教科等の指導に活かされているかを評価する。



同じ先生が自立活動の指導と各教科等の指導を担当する場合は関連を図りやすいですが、そうでない場合は、自立活動と各教科等を担当する先生の連携がより重要となります。

連携を図る上で、個別の指導計画を活用しましょう。



本リーフレットは、研究協力者の皆様のご協力をいただき作成しました。

- ・栗田 真和（御殿場市立玉穂小学校教諭）
- ・野呂 文行（筑波大学人間系教授）
- ・望月 優子（静岡市立東源台小学校教諭）
- ・小林 倫代（独立行政法人国立特別支援教育総合研究所名誉所員）
- ・久野 優（鹿島市立明倫小学校教諭）
- ・李 照菴（独立行政法人国立特別支援教育総合研究所特任研究員）
- ・小泉 俊子（水戸市立第四中学校教諭）
- ・加藤 宏昭（文部科学省初等中等教育局 特別支援教育課特別支援教育調査官）

発行元



独立行政法人  
国立特別支援教育総合研究所  
National Institute of Special Needs Education, Japan

自閉症教育研究班

柘植 美文 石本 直巳 佐藤 利正 長江 清和 棟方 哲弥

問い合わせ先

発達障害教育推進センター  
主任研究員 柘植 美文  
（自閉症教育研究班長）